

御岳百景

ふとまにさい
第13号 太占祭



年が明けた1月3日、氷点下の武蔵御嶽神社では早朝より祭事が行われる。

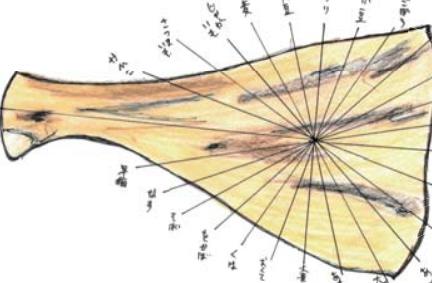
太占祭は牡鹿の肩甲骨を焼いて、その年の農作物の吉凶を占う祭りである。

祭りは1月2日夜に火きり具を使い、火を熾すことから始める。正装した神職が交代しながら行うが、約1時間かかる。その間に、火鉢にわらを燃やして炭を作り、熾した火を炭に移して消さないように保管する。宮司と上役は牡鹿の肩甲骨の形を半紙に写して、その中心から放射状に25本の線を引く。それから作物の銘柄を書いた紙縁を25本作り籠にする。どの線に何の作物を当てるかは籠を引いて決める。

日の出と共に太占祭場にて祭事が始まるが、ここからは非公開だ。昨晚熾した火種と肩甲骨を用いて占いをする。祭場の小さな炉の中に火種をうつし、炉の上に網をかけ、その上に骨を置く。さらに細く割った杉の木をくべながら炉で炙ると骨にヒビが入る。神職が祝詞を3度奏上すると火が強くなり、宮司が鎮火祝詞を奏上すると火の勢いは弱まる。入ったヒビがどのくらいかを、宮司と総代が計って占いの結果が決まる。太占祭の結果は、農作物の出来高や天候を予測するものである。

ある神職は「太占祭は、お祭りらしいお祭りだ」という。私も同感である。古来より受け継がれるこのユニークな祭りを御岳百景に認定したい。今年の占い結果はどうであろうか。

(解説員 ばば)



2019年 秋号 No.13



失

2019年9月13日

滝本駅の神代イチョウが突然倒れた
人も家も車も巻き込むことなく、根っこから
約500年、御岳山に来る人達を見守ってくれていた

春には木のてっぺんでオオルリが囀り
秋にはたくさんの銀杏を落とし
鮮やかに黄葉した

ここ何年かは、葉が小さくなり、実も少なくなっていた
確実に弱ってきていたようだ



なくなってからはじめて
大きな存在であったことに気づく
秋にこのイチョウの黄葉を見ることができないのはとても寂しい

御岳山でちょい 「お気軽 紅葉スポット」

ケーブルカーを降りてすぐ行ける！

武蔵御嶽神社
神社までの長い石段も紅葉を見ながら頑張れます！

神社の赤い社殿とモミジの赤さがナイスマッチ！

大きなミズナラの黄葉は見ごたえあります！

御岳山でちょい
「お気軽 紅葉スポット」

富士峰園地
通称「ケーブル道」ここはさまざまなモミジが秋を彩ります！

手前の紅葉と奥の院の構図は写真撮影ポイント！

御師集落
VC

大塚山

雑木林らしい黄葉のトンネルが楽しめます！

(解説員 ふかさわ)



10月12日に大型の台風が関東地方を直撃してしまい、御岳山の周辺でも多くの土砂崩れや倒木の被害があったんだ。今後、このような強い台風が頻発するのではないかと心配だね。

御岳ビジターセンター

〒198-0175 東京都青梅市御岳山38-5
開館（9:00～16:30）休館（月曜日 ※祝日の場合は翌日）
TEL 0428-78-9363 FAX 0428-78-9445
HP <https://www.ces-net.jp/mitakevc/>

指定管理者：株式会社自然教育研究センター（CES）

御岳ビジターセンター公式キャラクター
ムサくん

2019年11月 第13号

今話題の シカの食害問題 御岳山では...?

今や多くの人が知っている「シカの食害問題」
どんな問題...?
御岳山は大丈夫...?

御岳山で暮らす名前にシカとつく動物は、
ニホンジカとニホンカモシカの2種類。
シカ問題の「シカ」って、どちらのことなのか?
両者の暮らしを比べてみよう。



強さの象徴！
オスだけに角あり

ニホンジカ
偶蹄目 シカ科

●暮らしのサイクル

昼夜を問わず行動するが、警戒心が強いため、御岳山
では登山者で賑わっている日中は出ない夜型が多い。

オスもメスも角がある。
見た目での判別は難しい

カモシカ
偶蹄目 ウシ科 ←
シカの仲間
ではない！



●暮らしのサイクル

昼夜を問わず行動するが、ニホンジカに比べて、警戒心
の薄いカモシカは人前でもお構いなしの昼型が多い。

シカの食害って？どんな問題なのか？

近年問題となり、よく聞くようになった「シカの食害問題」という言葉。実は数十年前から全国各地で問題になっている。そもそもどんな問題で、誰が困っているのか。大きく目立つのは、山地であらゆる植物が食べられ一部が丸裸になった森林の様子や、シカが好まず食べ残し、特定の植物だけが繁茂した森林の姿などである。食害によって自然豊かだった景観が損なわれ、生態への影響も出てきている。

例え
ば
…



御岳山ではどんなことが起こっている？

御岳山では、ここ5年でシカが急増している。ビジャーセンターの調査でも、ササやアオキ、カタクリやレンゲショウマ、毒のあるミヤマシキミも食べていることが分かっている。また、山の畠の作物への被害も増えている。



2014年から御岳ビジャーセンターで
確認した草本・木本の食害

66種類

●行動スタイル

メスは自分のこどもや他の家族といふこともある団体行動派！オスは1才を過ぎると群れを離れ行動する一匹狼タイプが多い。



●繁殖スタイル

繁殖期には強いオスがハーレムを作り、多くのメスと子を持つことが出来る。また、健康的なメスなら1才の秋から妊娠でき、毎年春に出産する。



●お食事スタイル

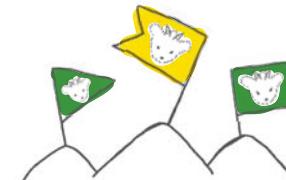
基本的に口の届くところは何でも食べるので植物が一定の高さになっていることもしばしば。届かなければ、枝を折って食べたり、樹皮を食べたりもする。



折って食べられたササ
樹皮を剥がされたミズキ
樹皮によっては木が弱り
枯れてしまうことも

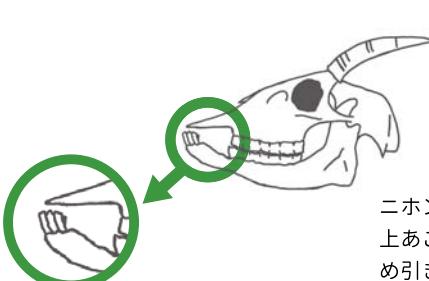
●行動スタイル

カモシカはそれぞれでなわばりをもつ。メス同士ではなわばりが重なることもしばしば。眼下腺から出すニオイ物質をなわばり内の木などにこすりつけて主張する。



●お食事スタイル

ニホンジカと比べて体が小さいため、栄養価の高い植物を選んで食べる傾向にある。斜面を歩くのが得意で美味しいものがあれば、崩れ落ちなどところでも平気で歩く。



ニホンジカと同様、
上あごに歯がないため引きちぎったような食べあとになる。

東京に残された 自然豊かな御岳山を守るために

全国の森林で問題になっているのは、実はニホンジカの食害である。群れで一気に食圧がかかるため植物の再生が追い付かず、問題になっている。そしてここ数年、御岳山でも急増している。全国的にも希少なレンゲショウマ群生地（富士峰園地）には、柵などで対策をしているが、柵の外を守ることはできず、根本的な解決にはなっていない。このままでは御岳山の環境が激変してしまう可能性がある。御岳ビジャーセンターでは、2014年からシカによる食害状況を把握するための基礎調査を行っており、今年で5年目を迎える。こうした基礎調査を記録し続けていくことは、自然を守るためにとても重要であり、今後も調査を継続していく。

<大塚山周辺>
食害を受けたササの高さが一面そろっている様子



みんなからの情報求む！！

ビジャーセンターでは、シカの目撃情報、食害情報等を収集しています。みんなからの情報を待ちしております。御岳山の自然のこと、みんなで一緒に考え、保全していきましょう。

【参考文献】

- 哺乳類のフィールドサイン観察ガイド、熊谷さとし・安田守、文一総合出版、2017
- シカ問題を考えるバランスを崩した自然の行方、高槻成紀、ヤマケイ新書、2015
- ニホンカモシカ 行動と生態、落合啓二、東京大学出版会、2016